

姥ヶ山自治会報

第 93 号

発 行 者
姥ヶ山自治会
阿部博一

令和七年六月三十日現在
姥ヶ山自治会動向
世帯数 一、四二〇戸
班 数 一二〇班

姥ヶ山「地域の宝」とは



自治会長

阿部博一

令和七年四月二十日(日)ご来賓の方々のご出席を頂き「姥ヶ山自治会総会」が行われました。おかげさまで六年度は、様々な活動を行ってきましたが皆さま方のご理解とご協力を頂き無事終了することができました。七年度も前年度同様にご協力の程よろしくお願い致します。

《姥ヶ山「地域の宝」とは》

昨年八月末に桜が丘小学校三年生の総合学習に講師として、姥ヶ山石仏山地蔵堂の歴史並びに姥ヶ山自治会の行事(さいの神等)を紹介しました。後日、子供達の礼状と学校から「子供たちは姥ヶ山地域の歴史、そこに住む人々の思いが理解でき、地域のことに関心をもち、地域のことさらに好きになったようです」とのお手紙を頂きました。そして、今年も昨年と同じ三年生に七月初旬の総合学習の授業で「地域の宝」の演題で石仏山地蔵堂の歴史を語ります。

まずは、現在の石仏山地蔵堂の場所は、まだ人が住む前には今津の森といわれ、うっそうとした木々に覆われた

船着き場であったこと。そしてそこに航海の無事を祈るために一体の石仏が祀られ、その霊験あらたかな石仏は姥ヶ山の命名伝説として語り継がれていること。

姥ヶ山の砂丘列に人が住み開墾を始めた江戸時代初期の頃、石仏を信心していた、高橋彦四郎さんの夢枕に白髪のお爺さんに姿を変えた石仏が現れ、六体地蔵の建立の願いを受け、寄進を募った後、佐渡の宿根木の石工に依頼した時の驚きのやりとりのこと。

そして、一七一四年(正徳四年)大瀧本興寺第五世石天全補和尚による開眼法要後、ご本尊の石仏と六体地蔵が一緒になり、時には地域に天災や火災がある時は、大声を発し又は全身に汗を滴らせ凶事を知らせたりしたこと。それから「汗かき地蔵」と呼ばれたこと。そして「石仏山地蔵堂」として三百余年にわたり地域の人たちの拠り所であったこと。等々を教室で話した後、現地を三年生全員で見学する予定です。

小学校を出て「姥ヶ山古道」を通り現地では「今津の森碑」「玉垣工事記念碑」「供養塔」の説明後、今回は特別に高橋地蔵堂講長から、ご開帳によりご本尊をご披露して頂きます。

皆さんも機会があれば「地域の宝・石仏山地蔵堂」を訪れたらいかがでしょうか。



石仏ご本尊と六体地蔵尊



施主 高橋彦四郎
正徳四年
刻まれた供養塔



今津の森碑



古道から見た山門。
山門の直線上の堂宇に
ご本尊が鎮座

令和7年度 姥ヶ山自治会組織表

